

アジア研究教育拠点事業セミナー(S-2)実施報告書

平成23年 1月17日

独立行政法人日本学術振興会 殿

京都大学東南アジア研究所
速水洋子

セミナー実施報告書を次の通り作成しましたので提出します。

セ ミ ナ ー 名		日本学術振興会アジア研究教育拠点事業「変容するアジアにおける地方政治と社会的亀裂」
開 催 期 間		平成22年12月17日(金)～平成22年12月18日(土)(2日間)
開 催 地		日本、京都、京都大学稲盛財団記念館
日本側責任者	氏 名	岡本正明
	所属機関・職名	京都大学東南アジア研究所・准教授
開催責任者 (※日本以外の場合)	氏 名 (英文)	
	所属機関・職名 (英文)	
<p>セミナーの概要及び成果</p> <p>【概要】 本セミナーは、アジア、とりわけ東南アジアにおいて、宗教、エスニシティ、社会階層などさまざまな社会的亀裂(Cleavages)が、どのように政治的意味を持つのかを考察することを目的とした。西欧主体の政治理論では、民主主義国家においては社会的亀裂に沿って政党間の差異が発生するというのが常識的理解ともなっているが、東南アジアの現状を見れば、必ずしもそう簡単には言い切れない。そこで、26名の若手を中心とする東南アジア研究者が集い、本セミナーのテーマに沿った研究テーマを設定して発表を行い、相互に意見交換を重ねた。</p> <p>【成果】 90年代以降のグローバル化、市場経済の浸透により、東南アジアにおいて社会格差が極めて重要な政治社会的問題であるにもかかわらず、貧困層を中核とする政党組織の可能性はない。貧困層を支持母体とする政治勢力も一枚岩ではなく、政治的対立は、宗教、エスニシティなど社会階層以外の社会的亀裂を軸とする対立、さらには国家機構間の対立も絡み合っていることがわかった。それゆえ、今後は、この10年間の地方レベルでの政治権力の担い手とそのリソースの変遷に着目し、とりわけ、新しいグローバルな政治経済的権力の地方への浸透によって新たに台頭してきた政治権力の担い手とそのリソースの実態を分析していく必要があるとの意見が参加者の間で強くなってきた。次年度は彼らがどうした社会的亀裂を政治的に活用しているのかに力点を置きたい。</p>		

○参加者

① 「参加研究者リスト」に記入されている参加者数 23 人

（「参加研究者リスト」の研究者番号を記入してください。経費負担の別により区別すること。

<A：セミナー経費より負担。B：共同研究・研究者交流経費より負担。C：本事業経費からは負担しない。>）（形式任意）

1-2 京都大学 岡本正明 C

1-21 京都大学 水野広祐 C

1-44 京都大学 瀬戸裕之 C

1-55 立命館大学 本名純 C

1-57 同志社大学 林田秀樹 C

1-81 共愛学園前橋国際大学 新井健一郎 A

1-82 甲南女子大学 藤田渡 A

1-83 高知大学 岩佐和幸 A

2-23 Chulalongkorn University Viengrat Nethipo A

2-28 Maha Sarakham University Somchai Phatharathananunth A

2-29 Thammasat University Prajak Kongkirati A

2-39 Chulalongkorn University Ukrist Pathmanand A

3-7 LIPI Ikrar, Nusa Bhakti A

3-20 Wahid Institute Ahmad Suaedy C

3-21 Islamic State University of Jakarta Wahyu Prasetyawan A

3-22 LIPI Dewi Kurniawati C

3-23 Tanjungpura University Syarif Ibrahim Alqadrie A

3-29 University of Sultan Ageng Tirtayasa Abdul Hamid A

3-30 LIPI Ngadi A

3-31 LIPI Tri Ratnawati A

4-13 National Chengchi University Alan Hao Yang A

4-25 National Chi Nan University Pei-Hsiu Chen A

4-26 Center for Social Science Studies Tsai-Wei Sun A

② 「参加者研究者リスト」に記入されていない一般参加者数 13 人

（リスト不要）

○日程及び課題（セミナー関連資料があれば添付すること）

別紙のとおり